# 第２学年　ESD（生活科）学習指導案

日時：平成２９年６月２０日（火）　３校時
場所：２年教室　　授業者：相樂　佳代

１　単元名　「みんなでつかうまちのしせつ」

２　児童の実態

２学年の子どもたちは、生活科で「まちたんけん」に行ったり、いろいろな施設を見学したりする活動をとても楽しみにしている。今回見学する「岩瀬学校給食センター」「岩瀬公民館」「岩瀬図書館」についても、「毎日給食がトラックで運ばれてくる。」「公民館のお祭りで豚汁を食べた。」など、積極的に自分が知っていることや経験を話していた。特に図書館については、多くの児童が休日に訪れており、「読み聞かせの後に工作もできる。」「たくさん本を借りると賞品や賞状をもらえる。」など、たくさんの意見が出た。しかし、児童が考えていることは、自分自身とその施設に関することが主であり、そこで働く人々がおり、自分だけでなく多くの人々が利用する場所であるという意識があまりない。そのような児童が、「みんなでつかうまちのしせつ」の単元を通して、公共の意識を持ち、みんなが気持ちよく利用したり生活したりするマナーやルールについて考えられるようにしていきたい。

３　ESD の視点に立った学習指導について

（１）教材について

本単元は、学習指導要領「生活科」の内容構成の具体的な視点の「エ　公共の意識とマナー」に属する学習である。みんなで使う物や場所、施設を大切に正しく利用できるようにすることを目指している。

単元の導入では、見学する施設について知っていることや質問したいことを話し合い、見学の計画を立てる。「岩瀬学校給食センター」「岩瀬公民館」「岩瀬図書館」の見学では、よく話を聞いたり、分かったことや初めて知ったことをメモに取る。疑問に思ったことはその場で質問をする。見学後には、分かったことや気づいたことを全体で共有するとともに、「なぜこのような施設があるのか。」「誰のために施設や物があるのか。」という視点で考え、それらがみんなのためにある公共の施設であることを理解し、そこで働く人々の工夫や、みんなが気持ちよく利用するためのルールやマナーについて考えることができるようにしていく。

（２）持続可能な社会づくりとの関連

施設の見学学習を通して、「給食の食器はみんなが使うものであるから自分も大切に使おう。」「図書館は大人も子供もみんなが利用するところだから静かにしよう。」などと児童が感じ取ることができれば、それは公共の意識の高まりにつながる。自分だけでなくみんなが使ったり利用したりするものを大切にしようという意識は、今後、児童が他人と関わりながら生活していく上で非常に大切なことである。そして、単元の最後に自ら今後の自分の行動を考えることは、見学後に「ここはみんなが使うトイレだから、きれいに使おう。」「自分も相手も気持ち良く過ごせるように、自分からあいさつしよう。」など他の場所でも自ら実践していこうとする行動力にもつながっていくと考える。「みんなのために」という思いを行動に移すことは、「一人一人が大切にされる」ことであり、これは持続可能な社会づくりの構成概念のうち、「Ⅳ公平性」（一人一人の良好な生活や健康が保障・維持・増進されること）に当たると考える。

また、単元を通して、見学した施設とどのように関わっていきたいか、自分なりの思いを持つことは、自分の行動に責任を持ち、自ら進んで行動しようとする気持ちの表れでもある。これは構成概念の「Ⅵ責任性」（一人一人がその責任と義務を自覚し、他人任せにするのではなく、自ら進んで行動すること）に当たると考えている。

（３）本単元の学習指導で重視する能力・態度の内容とその指導

＜気持ちや考えを交流させ、協力して取り組む態度＞

・・・友達の話をよく聞いて、新しいことに気づいたり、気づいたことや分かったことを相手に伝えたりする力

＜さまざまな人や社会、自然などとのつながりに関心を持ち、尊重するとともに大切にしようとする態度＞

・・・地域にはみんなのために働く人がいたり、施設や物があったりすることに気づき、それらをこれからも大切にしようとする力

＜よりよい未来をめざし、その実現に向けて主体的・計画的に取り組む態度＞

・・・みんなのために働く人や施設に感謝し、今後自分がどのように行動していけばよいか考える力

これらの能力・態度を育てるために、次のような点に留意して指導を進める。

① 今までの経験・知っていること・疑問・分かったこと・気づいたことなどを伝え合い、全員で共有しながら単元を進める。

② ３・４名のグループを作り、考えながら表現し、表現しながら考えることができるようにする。

③ 意図的な発問を繰り返すことを通して、見学した施設が公共の施設であることに気付き、児童が今後どのように行動したいか、自ら考えていけるようにする。

４　単元の目標

身近な公共施設を見学し、公共施設やそこにある公共物はみんなでつかうものであることや、それらを支えている人々がいることが分かり、それらを大切に使ったり、安全に気をつけて正しく利用したりすることができるようにする。

５　指導計画と評価規準（総時数５時間）

| 次 | 時 | 活　動　内　容 | 関心・意欲・態度 | 思考・表現 | 気づき |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 1 | 見学する施設について知っていることを話し合い、見学の計画を立てる。 | 自分が知っていることや利用した経験を進んで話している。<br>＜交流と協力＞ | 相手や場所に応じた適切な行動や安全な行動について考え、見学の計画を立てることができる。<br>＜つながり＞ | |
| 2 | 2<br>3<br>4 | 給食センター・岩瀬公民館・岩瀬図書館の見学を行う。 | 興味をもってたんけんや見学を行い、よく話を聞いたり、進んで質問したりすることができる。 | 見学で分かったことや初めて知ったことをメモしたり、疑問に思ったことを質問したりすることができる。<br>＜交流と協力＞ | 施設にははたらく人々がいたり、いろいろな工夫があることに気づいている。<br>＜つながり＞ |
| 3 | 5<br>本<br>時 | 見学学習を振り返り、見学して分かったことを話し合う。 | 見学してきた施設や物、人に関心を持ち、それらがだれのためにあるのか進んで考えている。<br>＜つながり＞ | みんなのためにある公共の施設とどのように関わっていきたいか、自分なりの思いを持つことができる。<br>＜主体的・計画的＞ | 見学した施設は、みんなのためにある公共のものであり、みんなが気持ちよく利用したり生活したりするための工夫があることに気づいている。<br>＜つながり＞ |

６　ねらい＜第５時＞

見学学習を振り返り、みんなで使う施設や物があることや、それを支えている人々がいることがわかり、これからの自分の行動について考えることができる。

7　指導過程

| 段階 | 学習活動・内容 | 時間 | ○指導上の留意点＊ESD の視点に立った留意点・評価＜ESD で重視する能力・態度＞ |
|---|---|---|---|
| 導入 | 1　本時のめあてを持つ。<br>それぞれの施設について分かったことをまとめる。<br><br>め　給食センター・公民館・図書館はだれのためにあるのか考えよう。 | １５ | ○見学してきた場所がどんな施設だったかクイズ形式で出題し、各施設ごとに児童の答えを板書したり、写真を貼ったりしていく。<br><br>**＊３・４人のグループを作り、話し合いながら答えていけるようにする。全員が発言できるよう、グループの中で毎回違う児童に発表させるようにする。＜交流と協力＞** |
| 活動 | 2　見学してきた施設がだれのためにあるか考える。<br>（1）給食センター<br>・なぜみんなの家にはないような大きい機械や道具ばかりなのか。<br>・なぜ働く人は深く帽子をかぶったり、エプロンを場所ごとに付け替えたりしているのか。<br><br>（2）公民館<br>・なぜ３６年も前からずっとあるのか。<br>・ホール、調理室、視聴覚室、和室（茶室）、会議室など、なぜこんなにたくさんの部屋があるのか。<br><br>（3）図書館<br>・なぜ５６４２４冊もの本がおいてあるのか。<br>・なぜみんなが読めないような難しい本も置いてあるのか。<br>・なぜたくさん読むと賞品がもらえるのか。<br>◎３つの施設は→自分だけでなく**みんなのためにある** | ２０ | **＊「なぜ大きい機械があるのかな。」「なぜこんなにたくさんの本があるのかな。」など、発問を繰り返し、これらが公共の施設であることに気づけるようにする。　＜つながり＞**<br><br>○公共の施設に関係のある発言があった時には、色を変えて（黄色）板書していく。<br>・たくさんの人が給食を食べる。<br>・みんなが気持ちよく過ごせるように。<br>・長い間みんなが使ってきた場所。<br>・多くの人が利用している。<br>・みんなが楽しめるようにしている。<br>・だれでも使えるようにしている。<br>・使った人がうれしい気持ちになるように考えてくれている。<br><br>・見学した施設は、みんなのためにある公共のものであるということに気づいているか。<br>（発言・発表）＜つながり＞ |
| 振り返り | 3　本時のまとめをする<br>（1）みんなが気持ち良く利用することができるように、わたしたちにできることはないか考える。<br><br>（2）今日の授業や見学の感想を書く。<br><br>・これからはみんなが使っている給食の食器をきれいに使いたいです。<br>・これからは、みんなが使う図書館に行ったら、静かに過ごしたいです。 | １０ | ○自分ができることを思いついた児童に発表させる。その理由も発表させる。まず友達の意見を聞いて、なかなか思いつかない児童が自分の行動についても考えられるようにする。<br><br>**＊今後、その施設とどう関わっていきたいかが分かる感想を書けるように「これから・・・」という文を入れて書くようにさせる。**<br>**＜主体的・計画的＞**<br><br>・今後見学した施設とどのように関わっていきたいか、自分なりの思いを持つことができたか。<br>（発表・ワークシート）＜主体的・計画的＞ |

（３）授業研究の様子（ＥＳＤの視点に立った能力や態度を育成するための手立てに沿って）

**＜導入段階「それぞれの施設について分かったことをまとめ、本時のめあてをもつ」＞**

**３・４人のグループを作り、話し合いながら答えていけるようにする。全員が発言できるよう、グループの中で毎回違う児童に発表させるようにする。　＜交流と協力＞**

見学してきた場所がどんな施設だったかクイズ形式で出題し、各施設ごとに児童の答えを板書したり、写真を貼ったりした。

○　見学の際に一人ひとり分かったことをメモに取っていたので、それを見ながら発言することができた。見学した順に１つずつクイズを出していったので、どんな施設だったかよく思い出すことができた。

●　全員が発言できるようにグループを作ったが、答えが分かった児童が次々と発表してしまい、話し合ったり、一緒に考えたりする時間が短かった。

各施設で分かったことをまとめた後、めあてを提示した。

**め　給食センター・公民館・図書館はだれのためにあるのか考えよう。**

**＜展開段階「見学してきた施設がだれのためにあるか考える」＞**

**「なぜ大きい機械があるのかな。」「なぜこんなにたくさんの本があるのかな。」など、発問を繰り返し、これらが公共の施設であることに気づけるようにする。　＜つながり＞**

○給食センター
- なぜみんなの家にはないような大きい機械や道具ばかりなのか。
- なぜ働く人は深く帽子をかぶったり、エプロンを場所ごとに付け替えたりしているのか。

○公民館
- なぜ３６年も前からずっとあるのか。
- ホール、調理室、視聴覚室、和室（茶室）、会議室など、なぜこんなにたくさんの部屋があるのか。

○図書館
- なぜ５６４２４冊もの本がおいてあるのか。
- なぜみんなが読めないような難しい本も置いてあるのか。
- なぜたくさん読むと賞品がもらえるのか。

→児童から出た意見

・たくさんの人が給食を食べる。
・みんなが気持ちよく過ごせるように。
・多くの人が利用している。
・みんなが楽しめるようにしている。
・使った人がうれしい気持ちになるように考えてくれている。

◎３つの施設は
→自分だけでなくみんなのためにある

○　たくさんの発問を用意したことで、子どもたちはみんなのためにこれらの施設があるということに気が付くことができた。
●　３つの見学施設について考えていったので、時間が足りなくなってしまい、児童がゆっくりと考えたり話し合ったりすることができなかった。

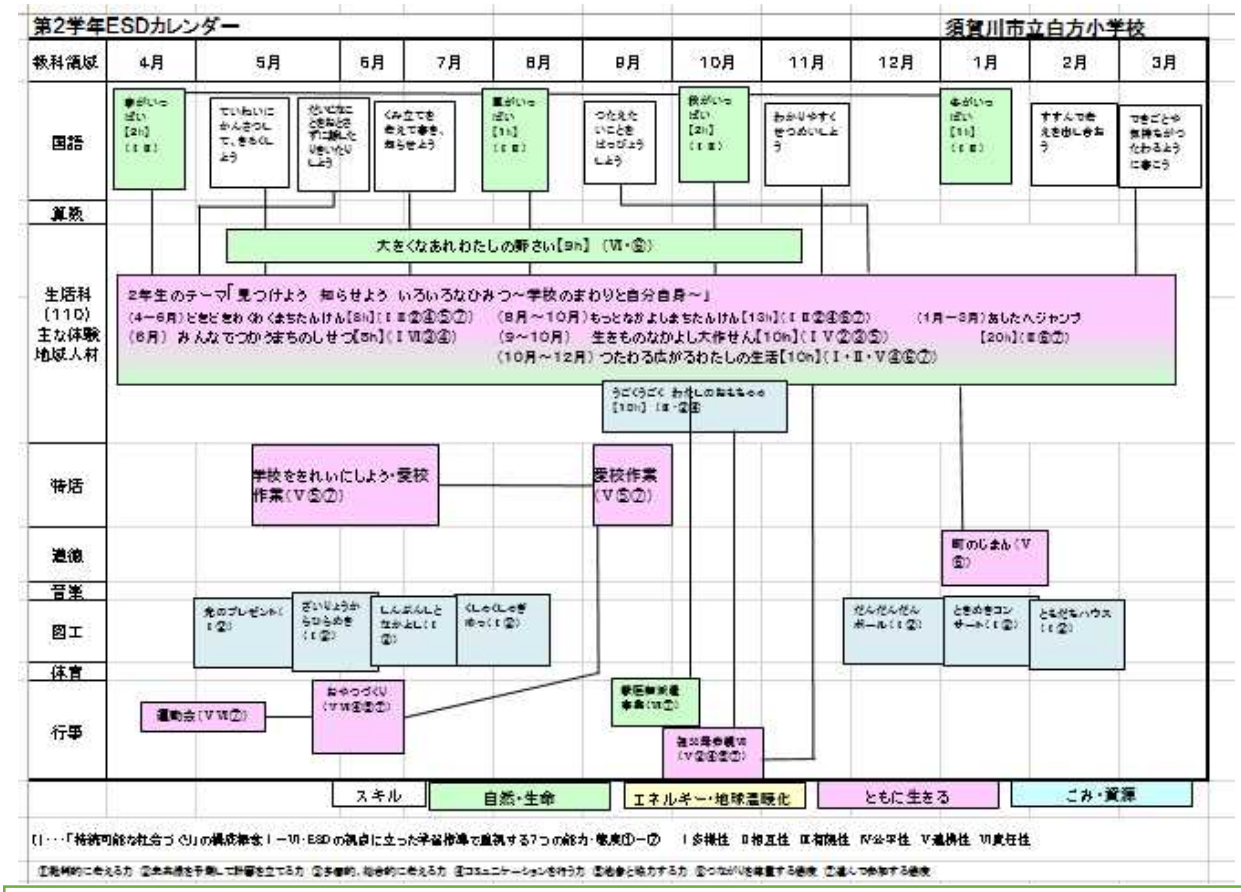
＜終末段階「みんながこれらの施設を気持ち良く利用することができるように、わたしたちにできることはないか考える」＞

自分ができることを思いついた児童に発表させる。その理由も発表させる。まず友達の意見を聞いて、なかなか思いつかない児童が自分の行動についても考えられるようにする。

○　「これからはみんなが使っている給食の食器をきれいに使いたい。」「みんなが使う図書館に行ったら、静かにする。」などこれからの自分の行動について考える児童が多かった。
●　「これらの施設がみんなのためにある」ということと、「これからの自分の行動」が結びつかない児童もいた。展開の段階で「みんなとは誰の事なのか」をもっとよく話し合えばよかった。また、生活科ではなく道徳の授業に近くなってしまったところもあった。

（４）今年度の実践の成果と課題

①今年度の実践を振り返って




**２年生の生活科のテーマ**
**「見つけよう　知らせよう　いろいろなひみつ～学校のまわりと自分自身～**

４月、生活科のスタートに当たり、「子どもたちは、自分が住んでいる方部以外の白方のことをあまり知らない。町たんけんを通して、白方にはどんな場所やものがあるのかを知り、見つけたことを周りの人に伝えさせたい。」ということを考えた。

１学期は、まず「みんなが使う公共の施設を見学し、たんけんの仕方を身につけること。」「自分が知っている、家のまわりのひみつを紹介し合うこと。」、２学期は、「学校から歩いて行くことができる場所にどんな場所やものがあり、人がいるのかを見つけること。」「見つけたひみつを相手に分かるように伝えること。」をさせたいと考えた。

**４月　「どきどきわくわく　まちたんけん」　笹原川の千本桜のたんけん**

三年生と一緒に、「笹原川千本桜」の見学に行った。ここは、白方小学校から歩いて二十分ほどのところにある。近くに住んでいる児童はよく行っているようだが、初めて来たという児童や、こんな場所があることを知らなかったという児童もいた。当日はちょうど桜が満開で、子どもたちからは歓声が上がっていた。

また、菜の花、水仙、つくし、など春の植物もたくさん見つけることができた。

## ６月　「みんなでつかうまちのしせつ」　公共の施設の見学学習

〇岩瀬学校給食センター

給食を作るためのいろいろな機械や、給食を作っている様子などを見せていただいた。大量の野菜の皮を一度にむくことができる機械や、大きなざるやボール、なべ、コンベンションオーブンという大きなオーブンなども見せていただき、子どもたちはとても驚いていた。給食センターの人は、調理用の服を着て、髪の毛が落ちないように帽子をかぶり、服についたゴミを落としていた。学校のみんなににおいしく給食を食べてもらえるように、いろいろな工夫をしていることが分かった。

〇岩瀬公民館

大きなホール・調理室・会議室・和室・視聴覚室などたくさんの部屋があった。これらの部屋は、大人から子どもまでいろいろな人が様々な活動をするためにあるということを教えていただいた。

〇岩瀬図書館

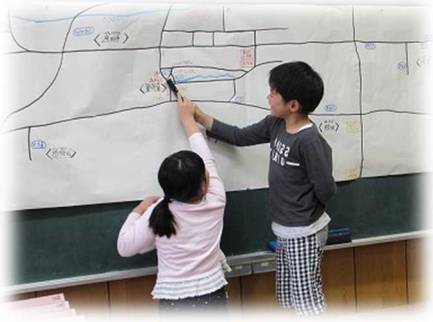
読み聞かせをしていただいたり、いろいろな本を選んで借りたりした。子ども達が読む本以外にも、大人の人が読む本もたくさんあることが分かった。また、たくさん本を読んだ人は、プレゼントや賞状がもらえるとのこと。図書館を利用する人に楽しんでもらうために、図書館の人はいろいろな工夫をしていることが分かった。

〇教室での話し合い活動（研究授業）

３つの施設とも、児童はよく話を聞いて大事なことをしっかりとメモすることができた。そのメモをもとに、教室で話し合い活動を行った。これらの三つの施設は、自分たちだけでなく、みんなのためにあるということが分かった。児童からは「これからもきゅう食をのこさず食べたいです。」「食きをきれいにつかったり、かりた本を大切に読んだりすることができるようにしたいです。」という感想が出された。

## ７月　「どきどきわくわくまちたんけん」　わたしたちのまちのひみつ発表会

方部ごとに分かれて、自分の家の周りで知っていることや、お気に入りの場所を発表し合った。公園、お寺や神社、お店、山や川、ひみつきちなどいろいろな発表があったが、その中から、行ってみたい場所をみんなで話し合った。歩いて行けそうな所にみんなでたんけんに行くことになった。



## ９月　「もっとなかよしまちたんけん」　みんなで決めた場所のたんけん

『里守屋の町たんけん』

〇七つ石公園

　初めて来たという児童が多かった。本当に石が七つ並んでおり、公園の石碑に書かれている内容から､歴史のある場所であることが分かった。

〇白方郵便局

　郵便の仕事の内容や全国の郵便局の数などについて教えていただいた。郵便局では、旬の食べ物を配達してくれるサービスもあることが分かった。お客さんに喜んでもらえるよう、ポスターやかわいい人形なども置いてあった。

〇矢部商店

　一人二百円で買いものをした。おつりを見ながらもっと買えるものがないか考え、計算をしながら買っている児童もおり、算数の学習になった。

〇満願寺

　お経が中国から伝わったものであることや、お寺は昔から人々が集まる場所であったことなどを教えていただいた。お寺にはたくさんのものが置いてあり、一つ一つのものについて丁寧に教えていただいた。

『今泉の町たんけん』

〇路線バスの利用

　バス通学の児童以外は、バスに乗ったことがない児童がほとんどで、全員が整理券を取って料金を支払う体験をした。

〇白方神社

　家が近い児童にとってはよく知っている場所だが、初めて来たという児童もいた。神社の裏には大きな岩があり、下のところを通れるようになっていて、ひみつきちになると教えてくれた児童もいた。

〇むそう庵

　今泉方部の人たちが集まって話し合いをしたり、勉強会をしたりする場所。建物の前には遊具がたくさんあり、子どもたちは夢中になって遊んでいた。

〇安藤理美容室

　本学級の児童の家。店長さんが、いろいろなはさみの使い方を教えてくれた。髪を切るためのはさみは何種類もあることが分った。その他にも、パーマをかける機械、動くいすなど、一つ一つ丁寧に教えてくださった。

〇祖父母参観での発表

探検で分かったことはカードに書き、全員分を大きな白地図に貼ってまとめていった。まとめたことを祖父母参観の「白方フェスタ」で発表した。児童にとって身近な場所でも、知らないことがたくさんあり、新しいひみつをたくさん発見することができた。クラスの中で話し合うだけでなく、保護者や地域の人々、他学年の子どもたちにもそれらを伝える機会ができ、大変良い経験となった。

② 白方小学校のＥＳＤの視点に立った学習指導で育む能力･態度について

**＜多様な観点から考え、見通しを持ってよりよい解決策を考える力＞**

〇 「町たんけん」を行う前に、行く場所について知っていることを話し合い、全員で共有した。分からないことも出し合い、どんなことを見てくるのか決めたり、質問を考えたりした。たんけんする目的をはっきりとさせたことで、見通しを持って取り組むことができた。

**＜気持ちや考えを交流させ、協力して取り組む態度＞**

〇 たんけんの後に振り返りの時間を必ず設けるようにし、初めて知ったことや分かったことを全員で共有し、カードに書いて白地図にまとめていった。どんな工夫があったか、どうしてそうなっているのか等について全員で話し合う機会も設け、たんけんするだけで終わらないようにした。

**＜さまざまな人や社会、自然などとのつながりを尊重する態度＞**

〇 町たんけんを通して、地域にあるものや良さなどに気が付くことができた。今まで知らなかったことがたくさんあるということにも気が付き、大事なことをメモに取ってくるという姿勢が身についた

● 地域にあるものと自分とのかかわりについてはよく考えることが出来たが、人とのつながりというところまでは深く発展させることができなかった。今後は地域の人々との関わりを通して、「人々がどんな思いをもってどんな工夫をしているのか。」という考えも少しずつ持たせていけるようにしたい。

**＜よりよい未来をめざし、その実現に向けて主体的･計画的に取り組む態度＞**

〇 たんけんや見学の振り返りの際に、「これから自分はどうしていきたいか」ということを書かせた。中には、「給食の食器をきれいにつかいたい」「みんなが気持ちよくしせつを使えるようにしたい。」「ふるさとのすてきなものを守っていきたい」という意見もあった。そのような考えが児童に芽生えたことは効果があったものと考えられる。

● 今後は、２年生の児童なりに、どんなことをするのか考えさせ、具体的な行動に移せるようにしていきたい。